

北海道浮魚ニュース

令和6(2024)年度6号

2024年6月26日

道総研 釧路水産試験場

【URL】 http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html

◎道東太平洋イカ類北上期資源調査結果

調査船・北辰丸により実施したスルメイカ資源調査の結果をお知らせします。

調査海域における海洋環境はスルメイカの来遊が可能な状態にあったが実際の来遊状況は低調であったと考えられる

調査期間：2024年6月2～6月5日

調査海域：道東太平洋（北緯41度線上の7調査点）

調査船：北辰丸（釧路水産試験場所属）、イカ釣機5台装備

調査方法：イカ釣機による夜間漁獲調査、CTDによる海洋観測

1. 水温環境（図1）

図1に各調査点の水温（表層・50m及び100m）とスルメイカのCPUE（2連式いか釣り機1台1時間あたり漁獲尾数）を示しました。海洋環境調査を実施した5調査点の表面水温は11.3～19.9℃（昨年7調査点12.9～16.4℃）、50m深は9.1～20.0℃（昨年3.9～10.3℃）、100m深は7.4～19.0℃（昨年1.2～8.3℃）の範囲にありました。全体として、調査海域全体でスルメイカの分布の目安とされる50m深で10℃以上もしくはそれに近い状態にあり、100m深の水温も5調査点中3調査点で15℃を超える値となりました。塩分値も、最も西側に位置するSt.1を除いて暖流系とみられる高い値を示したことから、今回の調査海域はすでに黒潮系の暖水が波及した状態にあり、スルメイカの来遊は可能であると考えられます。

なお、道総研水産研究本部では北海道周辺海域で2ヶ月ごとに3隻の調査船を用いた定期海洋観測を行い、水温及び流向流速について海況速報を発信しています。以下のURLで公開

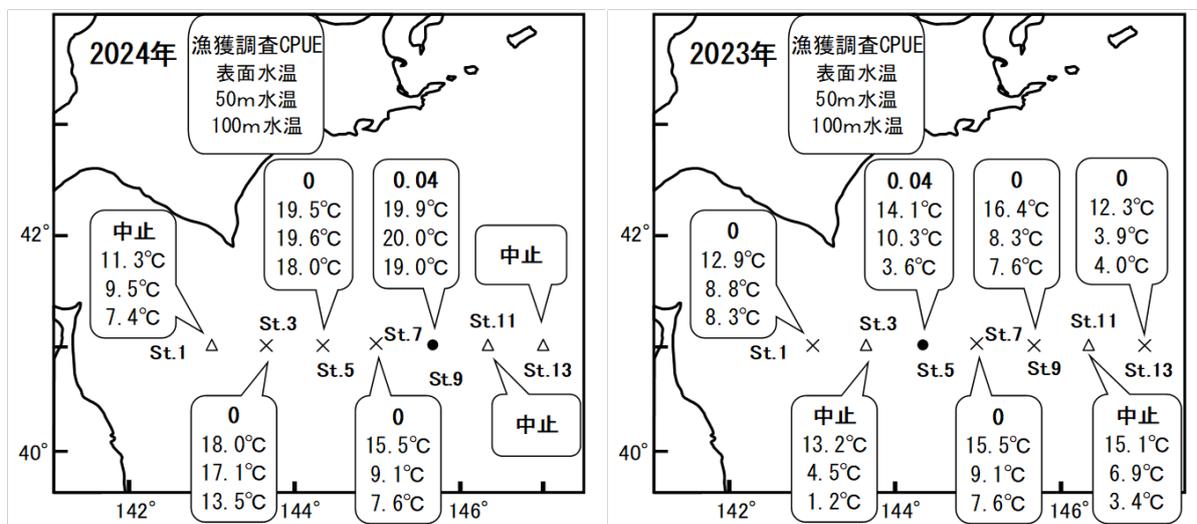


図1 各漁獲調査点でのスルメイカの漁獲調査結果と表面・50m・100m深水温度（左：2024年、右：2023年）。●は漁獲あり。×は漁獲なし。△は漁獲調査中止

していますので、そちらも参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou.html>

2. 分布密度 (図2、表1)

各漁獲調査のCPUEを基準としてスルメイカの分布密度を調べました。調査点7点のうち4点で漁獲調査を実施し、うちSt.9で1尾(CPUE:0.04)の漁獲がありました(図1)。全調査点の平均CPUEは0.010で昨年(平均CPUE:0.008)を上回ったものの過去4番目の低い値となりました。海洋環境調査の結果から今回の調査海域はすでにスルメイカの来遊が可能な状態にあると考えられますが、実際のスルメイカの分布密度は低く、北上群の来遊は低調であると考えられます。

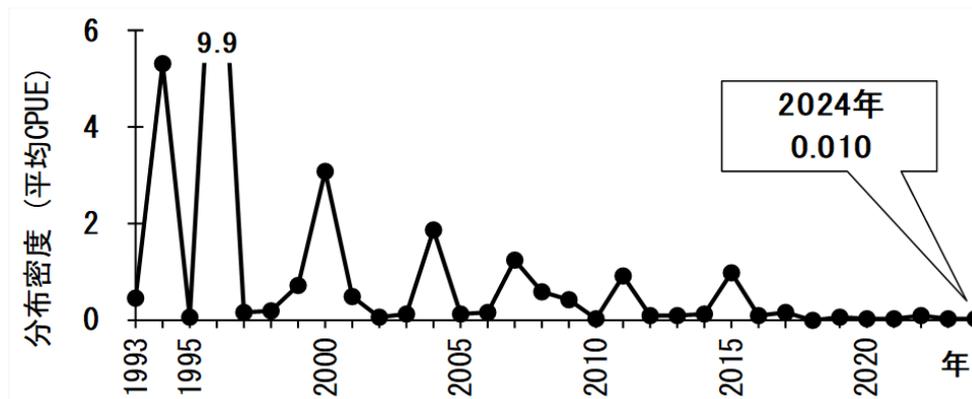


図2 スルメイカの分布密度 (平均CPUE) の経年変化

表1 2010~2023年のスルメイカ調査結果

調査日程	漁獲尾数	平均CPUE	外套長組成		調査点数
			範囲(cm)	モード(cm)	
2010年 6/7~14	8	0.03	13-16	15	7
2011年 6/7~14	268	0.92	6-19	16	7
2012年 6/9~16	29	0.10	6-11	10	7
2013年 6/3~10	15	0.10	5-16	16	7
2014年 6/2~9	20	0.11	13-18	15	7
2015年 6/4~12	159	0.97	13-20	16	7
2016年 6/7~13	12	0.08	14-18	15-17	6
2017年 6/7~15	24	0.16	11-17	15	6
2018年 6/5~11	0	0.00	-	-	5
2019年 6/5~11	4	0.05	10-11	10,11	5
2020年 6/4~11	1	0.01	11	11	7
2021年 6/2~10	2	0.02	16, 24	16, 24	5
2022年 6/2~6	5	0.07	8-15	8-15	3
2023年 5/31~6/9	1	0.01	12	12	5
2024年 6/2~5	1	0.01	14	14	4

3. 魚体サイズ (表1)

釣獲調査により漁獲されたスルメイカ1尾の外套長(胴長)は14.4cmでした。

4. アカイカ

漁獲調査を実施した4調査点のうちSt.3を除く3点で計13尾のアカイカの漁獲がみられました。平均CPUEは0.13で外套長の範囲は18~23cmにありました。